



校訓 響生・知性・至誠

農場通信



発行者 本吉響高等学校農業科

発行日 令和3年5月27日 第2号

新年度を迎えて約二ヶ月が過ぎ、新緑が眩しく感じる季節となりました。農場では農作物や草花の管理等で、多忙な毎日ですが、日々、成長する姿にやりがいと感動を覚えます。それ故に販売等で手元から離れる際は寂しさも感じます。まさに、農業は「命を育てる」教科です。新型コロナウイルスの影響から、家庭菜園を始める人も多くなり、農業の持つ魅力が再認識されていますが、今後も「ひびきブランド」の栽培をととして、命の大切さを学んでいきます。

春の苗販売会大盛況!



5月8日(土)、晴天にも恵まれた中で、農業選択生徒が丹精込めて栽培した、各種野菜苗及び花苗の販売会を開催しました。昨年は新型コロナウイルスの影響により、中止となりましたが、今年は9時からの販売会開始に合わせて、早朝より地域の方々を中心に多くの来場者で賑わいました。冬に種をまき、温室の中で丁寧に管理し、真心を込めて栽培した苗ですが



コロナ対策も万全です



ハウスへの入場制限にも協力いただきました



お客様に品種の特性や調理レシピ集も作成したことで、販売と同時にコミュニケーションを図ることができました。

今後も広くPRに努めていきます。



今年も「ひびき米」を栽培します!



昨年はコロナ禍により先生方で田植えを行いました。今年は2年振りに農業選択の2、3年生が手植えにより「ひとめぼれ」の苗を植えました。収穫までに八十八の手間がかかることから「米」の字がつくられたと言われますが、秋の刈り取りまでには病虫害防除等の多くの管理作業があります。



秋には「ひびき米」として販売します



祝 ひとめぼれ生誕30年

平成3年に古川農業試験場で誕生した「ひとめぼれ」が生誕30年を迎えました。現在も県内の8割以上の農家で栽培されており、全国的にもブランド米として有名です。今後は「だて正夢」と二大ブランドとして推奨されます。



画線を引き交点に植えます

お米の豆知識 ～茶碗一杯の値段は?～

昭和40年代、国民一人あたりの米の消費量は年間約120キロありましたが、年々減少し、令和元年には約半分の57キロまでに減少しました。背景にはパンや麺への嗜好の変化があり、日本人の米離れが進んでいます。そのような中、普段食べている茶碗一杯(150g)には米粒が約4,000粒前後あります。

値段にすると35円程度です。安いと思いませんか!



知っていますか?～苗半作～

なえはんさ

情報

「苗半作」とは種をまき、苗を育てるまでで、栽培の半分が終わることを言い、作物栽培は苗作りが大切なことを意味します。本校の野菜苗は健全なことで知られています。その背景には、徹底した水管理にあります。できるだけ灌水の頻度及び量を控えることで根の張りが良くなり、丈夫な株に成長します。

「水かけ3年」と言いますが、単に水を与えるだけでは、良質な苗は育ちません。



金魚草が見頃を迎えています



草花温室では「金魚草」が見頃を迎えています。原産地は地中海沿岸ですが、ひらひらと舞うように泳ぐ金魚のような花姿をしていることから、この名前がつきました。

花茎から多数の花を鈴なりに咲かせる姿は大変豪華ですので、是非、花壇を彩ってみませんか?

